

前府中にて十六万石の地を給ひ、彼地に移られしかば、此國には主なく成て、石田治部少輔三成
代官として、三年の間かりに國の政事を取行ふ。今も國中農人の家に、三成の狀證文所々にあり、同四年正月、東照君の
御侘言によりて、秀秋再此國主となれりける。同五年の秋、石田治部少輔亂を發し、天下麻の如く
分れ、萬民累卵の憂をいだけり、されども東照君文武の徳おはしまして、一度戎衣して天下を平
げさせ給ひしかば、四海忽安靜にして、民今に至るまで其賜をうく、此時にあたりて、黒田孝高入
道如水公、其子甲斐守長政公は、元來二心なく東照宮の御方に參て、父子ともに莫大の忠義を盡
されしかば、其勳功の賞として、此國を以て長政に賜へり、如水公は英雄の才世をおほひ、明哲の
智衆に抽んでたりしかば、能功をなして其身を保ち給ふ、されば若きときは秀吉公を助けて非
常の功を立、時機を見禍をさけて、四十餘り強壯の盛に早祿地を辭して、令子長政公にゆづり、年
老て東照宮の御爲に兵を起して、大友を虜にし、筑紫を去む、長政公は若き時より日本朝鮮に
おゐて、數度の武功を立つ、只亂に勝の力群に越たるのみならず、治を致すの徳も亦群衆に拔ん
で給ひしかば、古き道を聞用ひて、國中の臣民にのぞみ、賞罰正しく、法制嚴にして、自儉約を守り、
民の非を禁じて能國を治め給ひし故、國豊に民安くして、又むかしの世に立歸りぬ、長政公此國
を治め給ふ事、慶長五年以來二十四年にして、元和九年閏八月四日、京都報恩寺にて逝去し給ふ。
〔日本地誌提要六十五〕沿革 古へ筑紫ノ國、前後二州ヲ分ツ、齊明天皇西巡シテ、朝倉今上座郡須川村
ヲ以テ行宮トナシ、師ヲ出シテ百濟ヲ救ヒ、唐人ト戰フ、天皇遂ニ行宮ニ崩ジテ師ヲ班シ、尋テ
太宰府ヲ御笠郡ニ置キ、今觀音寺村ノ西、府址アリ、九州ヲ總轄セシム、壽永元年、平氏安徳天皇
ヲ奉ジテ來奔シ、太宰府ヲ以テ行在所トナス、州豪原田種直平氏ニ從ヒ功アリ、因テ州守ニ任
ズ、既ニシテ平氏亡ビ、源賴朝、天野遠景ヲ以テ鎮西奉行トナシ、太宰府ニ鎮ス、建久七年、武藤資
頼之ニ代リ、太宰少貳ニ任ジ、子孫職ヲ襲ギ、少貳ヲ以テ氏トシ、内山城御笠ニ居リ、本州、及豊前、